

UCLA、うつ病による衛生・経済への影響を2050年までに半減させることを目的とした「うつ病グランドチャレンジ」を立ち上げ（10月28日）

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（University of California, Los Angeles : UCLA）は、米国経済に年間 2,000 億ドル以上の影響を与え、年間 4 万人以上という米国における自殺の主要な原因となっているうつ病による、衛生・経済への影響を 2050 年までに半減させることを目的としたイニシアティブ「うつ病グランドチャレンジ（Depression Grand Challenge）」を立ち上げた。本イニシアティブは、オバマ大統領が 2013 年に民間企業や研究大学などを含む諸団体に対して要請した取組みに沿った内容となっている。UCLA による同チャレンジは、大学が主導する取組みでは最大規模で、35 年計画の最初の 10 年間で 5 億 2,500 万ドルを投入すると見込まれている。なお、同チャレンジでは、①うつ病の原因究明のために 10 万人を対象とした調査の実施、②うつ病発症過程の理解を目的とした取組み「神経科学による発見（Discovery Neuroscience）」の実施、③研究参加者に対して最先端の治療を提供する革新的な治療センターの設置、④うつ病に関連する悪いイメージの理解と排除、という 4 つのうつ病関連の構成要素に重点を置くことになる。

The Regents of the University of California, The Grand Challenge of combating depression
<http://universityofcalifornia.edu/news/grand-challenge-combating-depression>